

山陰仏社会報



第6号

山陰教区仏教壮年会連盟会報・第6号

【編集・発行】山陰教区仏教壮年会連盟事務局
〒690-0002 松江市大正町443-1(本願寺山陰会館内)
電話(0852)21-4747 FAX(0852)27-8351



総会・研修会（くにびきメッセにて）本多昭人師による講義

「仏教壮年会連盟 発足して一年！」

山陰教区仏教壮年会連盟理事長 杉 本 健 治

浄土真宗本願寺派仏教壮年会連盟が発足して一年を経過しようとしていきます。山陰教区仏教壮年会連盟としても、教区内寺院数の五〇%以上更に、全組に組仏教壮年会連盟を結成との課題があり、その目標値に向かって努力しているところですが。

し参加者も増えて良かったと思っています。

今年度は、教区内五ブロックで開催された教区基幹運動連絡協議会に出席し、仏教壮年会の結成や拡充について話をさせていただき、五ブロック仏教壮年会の研修会にも出席しご理解をいただいたところですが。

仏教婦人会の岩田アサオ先生が一寺お寺を訪問して回りましたよ」と、仏婦結成当時のご苦労の話を伺ったことがあります。地域により、寺により、いろいろな諸事情はありますが目標に向かって足元から、身近なところの、出来ることから取り組んで実践したいものです。

この研修会、従来は、鳥取、島根の二カ所、あるいは、鳥取、出雲、石見の三カ所開催しておりましたが、石見地区が地域的にも広範囲であるとの想いから石見地区を邑智、石東、石西に分けて開催

私、今般、仏教壮年会連盟（全国）の副理事長を務めることになりました。仏教壮年会連盟綱領にありますとおり、自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞きともにお念仏申す朋友の輪を拡げ、多くの皆様の支えを頂きながら務めてまいります。

を邑智、石東、石西に分けて開催

合 掌

仏社会員としての自覚を！

教区仏教壮年会連盟副理事長 泉原 省三

平成二十年五月十八日、くにびきメッセにおいて総会・研修会が開催されました。

新たに仏教壮年会連盟綱領が制定され、本年四月から仏教壮年会連盟としてスタートをすることにいたしました。活動計画の一部をあらためて紹介し会員の皆様と共に親鸞聖人のみ教えに学びお念仏の朋友の輪を広げると共に組織拡充に努めたいと思います。

新たに制定された綱領は他の教化団体と連携して基幹運動をすすめようとするものであります。事業計画の具体的な項目を挙げれば、①組織強化、②研修活動の充実、③広報活動、であります。どれをとつても意義のある重要な活動計画ですが計画の中に挙げられている一つに仏壮バッジ着用の奨励について述べてみます。

念珠や門徒式章は基本的な作法として仏事などには身につける習慣が定着したように思われますが、仏社会員がバッジを付けている姿は余り多く見かけません。今

年の事業計画にバッジ着用の奨励がなされていますので私は六月に念仏奉仕団でお参りした際買い求めていつも着用し心がけています。バッジを着用することで身が引き締まり、仏社会員として自覚

し行動と言動にも責任を負う気持ちになります。私たち凡夫は常に自己中心で生きています。他人の良い点など認めようとしません。非難することばかりが先行してしまいます。小さなバッジですが着用することにより自らの反省をすることと他人を認め合うきっかけに気づくシンボルにしたいものです。組織拡充にご協力下さい。

【仏教壮年会連盟】

綱 領

われわれ仏教壮年は、
自らの生き方を
親鸞聖人のみ教えに聞き、
ともにお念仏申す
朋友の輪を拡げ、
心豊かに生きる社会の実現を
めざします。



私のお寺の 壮年会活動について

因幡組浄宗寺

富永 恒夫

浄宗寺の仏社は平成十九年十月に立ち上げ、まだ日も浅くて本格的に活動を始めたのは今年度からです。懇親を兼ねた二度のグラウンドゴルフ大会やご講師(毛利壽恵子師)をお招きしての仏法研修会等を開催してきましたが、この他に初めての試みとして『インド古典音楽の夕べ』コンサートを聴く』と題したコンサートをいたしましたので、この活動を中心に紹介させていただきます。

去る十月四日午後五時から浄宗寺本堂において日本では数少ないシタール奏者の伊藤公朗氏ご夫妻をお迎えし、(奥様はタンブーラ演奏と独唱を担当)約二時間にわたった有意義な時間を過ごさせていただきました。伊藤氏は、インドで修行者のナーダ・ヨギからシタール演奏を学んだ唯一の外国人だそうです。初

教区壮年の集い 「利得」を超えるお寺へ

大田組眞浄寺
下迫 紀弘

人々がお寺を遠ざける時代。その原因をさぐり、お寺の立て直しを語りあった。

住職はいばらないで、門徒と同じ地面に座れ。「死に支度の場」に人は来ない。門徒が元気を出せばよい。寺同志もつと繋がれ。これが私の分散会の声だ。

一方、お寺に賑わいを取り戻すため、住職・門徒が力を合わせよう、と講師は話された。

私は親鸞さんの「本願念仏」人びとを苦から救済する」がないお寺が人びとを遠ざける。「本願念仏」道を歩む人びとを励ますのがお寺、と思う。この押さえなくして、賑わい策を手当てしてもお寺が、浮世風呂・社交場以上にはならない。門徒の声がこれをよくいいあてた「集い」であった。



教区壮年の集い

仁摩組浄田寺
柿田 義哲

平成二十年七月十九日島根県江津商工会議所において「教区壮年の集い」研修会が八十九名の仏教会員が参加して開催されました。まず講師の澤田隆之先生より研修会テーマ「バリアフリー〜お寺とその活動」について問題提起の講話があり、分散会と意見発表が行われた。

特に印象に残ったことは、近年お寺に集まるご門徒が少なくなったと耳にしますが一人が一人を誘ってお参りし仏婦・仏壮に

こだわらず寺へ協力する。今の時代あらゆることにチャレンジしていく。例えば、ゴルフ大会など、ふれあうことで何かを感じてもらおう。そして自然と聴聞の場に出会い、門信徒として報恩講の法座に遇

う。そして日常生活の中でみ教えを伝え、お念仏の教えをよろこび、それぞれが手をつなぎ、共にバリアをなくし寺院の活性化に向けてお手伝いさせてもらうことに気づかせていただきました。

仏教壮年会連盟編

「朋友

浄土真宗入門のてびき

リニューアルされた仏教壮年会年ハンドブックです。

新制定された「仏教壮年会連盟綱領」「浄土真宗の教章（わたしの歩む道）」をはじめ、正信偈の解説、お釈迦様・親鸞聖人のご生涯、作法の基本や家庭での仏事など、知っておきたい事柄が満載！仏教壮年会員のみなさんの必携の書です。



● A5判 定価 ¥ 840

めてのコンサートで人が集まるか心配しましたが、舞台設営や音響・照明等、関係各位の絶大な御協力により、約六十名の方に参加いただきました。秋の夕暮れの本堂という厳肅な雰囲気の中で聴くシタールの音色が実にすばらしく、皆さんに大変感動していただけたことと役員一同うれしく思っています。

今後このようなイベントや勉強会を計画し、門徒同士の親睦を更に深めることによつて会員が増え、より一層護寺発展していくことを願っています。

どうぞ今後とも皆様方のご指導をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。



ブロック研修会に参加して

邑智ブロック研修会

市山組長玄寺

森田 勝秋

今回は五地区開催で参加者の集まり、会が始まる前には会場が満席の状態になり大変感謝しました。

邑智ブロック地区は他の地域に輪をかけて過疎化・高齢化が進んでいます。その中であって機会あるごとに仏社の組織拡大の願いを致して参りました。ここに来てやっと種が芽生えて今年度終わりには二つの仏社の組織が生まれる事をお聞きして大変感謝しています。住職も、門徒の皆さんも少



ない人数で活動して行く事は大変ですが自分達で出来る範囲で実行し継続されていく事を

お願いしたいと思います。又ブロックの中に組として登録されていた仏社組織の皆さんは会が終わってからお寺に戻り組織強化について話合われるとの事でした。若者のお寺離れは今後も進展すると思いますが、仏社への働きかけはがむしゃらに働き退職される団塊の皆さんへの声掛けも一人一人に声をかける取り組みも会員の役割です。私自身お寺の子供会に積極的に参加し今後の為の種まき活動を行っています。たのぶべきは弥陀一仏、よるべきは念仏一行、を常に意識し無理せず・焦らず・出来る事から実行して行く事が活動が継続すると確信しています。

合掌

鳥取ブロック研修会

因幡組願正寺

房安 薫

今回の鳥取ブロック研修会は、二部形式の研修会となり、分散会での話し合いは無く、事前に各仏社で話し合われた現状と問題点を



集約し、発表されました。何処も同じような問題を抱え、何かよい事例はないかと苦慮して

おられる様子が感じられました。この度の話の中に、キッズサングアの事が取り上げられ、考えてみますと、自分も「日校」に通い、祖父母や親に寺に連れて行かれ、自然にお寺とのご縁ができていた様に思う。それで時間的な隔たりはあっても、比較的すんなりと仏社活動に入れたように思う。自分を取り巻く色々な環境条件や、周囲の人からの誘いが大切だと考えさせられた。子供を対象にした行事や、多くの人を対象にした行事のその時々、声掛け合って参加を促し自分たちは行事のお手伝いをする。それが普通に出来れば私たちの次代、そのまた次代と、仏

石東ブロック研修会

大田組正蔵坊

青木 正三

仏教壮年会の活動と活性化をテーマとした研修会に参加させていただきました。班ごとに分かれて、直面している悩み、活動がうまくいっている事例について意見交換が行われました。

活動に参加する者の高齢化、固定化、若い年代層の寺との疎遠が共通する悩みでした。一定の歴史をもつ仏社は、組織を越えた地域の仏社として位置づいていました。

あるべき姿を前提に作られたものではなく、できることから始めて徐々に形作っていく



けているところに定着性が備わっている、感じたことです。

出雲ブロック研修会

神門組真宗寺

栗原 俊雄

八月三十一日、本願寺山陰会館で開催された「山陰教区仏教壮年会連盟出雲ブロック研修会」に神門組真宗寺仏社の一員として参加しました。当日の研修会は、午前には高野顕信先生から問題提起という形で、「魅力ある仏教壮年会の活動と活性化について」のご講話があり、午後にはこの問題提起を基に四班に分かれての分散会、全体会がありました。それぞれの単位仏社から活動状況等の披瀝があり、大変意義ある研修会となりました。

本稿では、この模様を少し申し述べ、若干の感想を付け加えることとお許し願います。

現在、山陰教区内には寺院数四三八に対し、仏社は九一寺院(組連盟を一単位として登録されている場合も含めて)で組織されています。いろいろな事情もあろうかと思いますが、少々寂しい気がし

ます。まずこれが問題点の一つではないかと感じました。このような状況の中での研修会であったわけですが、この仏社も組織上「高齢化」という問題を抱えつつも、研修旅行、清掃奉仕、仏具磨き、勉強会などを実施され、止めていく人がある一方、Uターン者など新しい人に積極的に声をかけ、比較的スムーズに世代交代が行なわれている例も紹介され、一同大いに勇気づけられました。

さらに、趣味等を取り入れ、とにかく若い人にもお寺に出かけてもらえるようなしかけをすることが大切であるという認識が示され、事実そのように実践されている仏社もありました。

このような諸活動とおし、全体的な印象としてこの仏社もお寺と門徒との懸け橋のような役目を果たさんと、懸命な努力を積み重ねられていく姿が垣



間見られたような気がしました。辞書をひも解けば「壮年」とは働きざかりの年ごろとあります。高齢化で組織が成り立たないというような負の連鎖を立ち切るとともに、私達仏社は、これまでの数々の経験を生かしながら、み教えをとおし、「心豊かに生きる社会の実現をめざす」重大な責任を果たしていかなければなりません。

この研修会が一過性のものとして終ることなく、お互いに日々精進を重ねたいものと思います。

石西ブロック研修会

浜田組真光寺

長田 幸男

私は寺の行事や草刈等に少しでも協力できればと思います。真光寺仏社に三年前に入会しました。

この度の研修会は二回目の参加となります。九月七日浜田組真光寺を会場に三十二名の出席の中で講師猪口彰也先生は、「魅力ある仏教壮年会の活動と活性化について」真宗教団の再生を問題提起されました。かつては真宗門徒のほとんどが農民、職人、商人であった、先祖は家の精神支柱として宗



旨と仏壇を中心にして暮らしてきたが、戦後の著しい産業構造の変化は家庭や家を崩壊させ、

既成仏教教団はその基盤を加速度的に失いつつあり核家族化や、家庭の中でも朝夕ばらばらの生活となり、お念仏の機能がなくなっている事などいろいろと話されました。昼食の後、分散会に分れいろいろの意見が出た中、全体会での発表があり、まとめをされました。分散会の中で他組の方々の出会いがあり組同志で交流会をしたことの意見も出て他組の活動状況など見たり聞いたりしたいと思いましたが。最後に真光寺ご住職の挨拶があり研修会を終りました。今後は他寺、他組の方々との出会いやお話ができることを楽しみにして自寺の仏社活動にも参加協力をお願いします。念仏の輪を広めたいと思います。

仏壮立ち上げにむけて

市山組西教寺

岡本 章夫



私は六年
前、西教寺
での仏前結
婚式の司婚
者の法話が
縁となり、

聴聞が始まりました。

このような大きな大会に初めて参加させて頂きました。ご門主さまのお言葉を賜りました。

『親鸞聖人のご本願を信じて生きていくことが大切です。あらゆる命はお互いに支え合っていることを忘れずに共に歩むように』と。意見発表まとめの講評では、藤井邦麿師(大分教区速見組正善寺住職)は、『楽しくなければお寺ではない。』と話された後で『楽しいばかりが

全国仏壮兵庫大会

邑智東組光西寺

細井 和雄

その後、法座のたびに仏縁を重ね、各種の研修会に参加してきました。特に、一昨年十月の中四国仏壮研修会(松江市)、昨年七月の教区壮年の集い(江津市)、そして一昨年秋から江津組連研と、多くの念仏の出遇いをいただきました。その中で、まことの念仏者になるための学びの必要性を強く感じ、そして、そのことを実践する

お寺ではない。』と或る雑誌のインタビュー記事の一部を紹介されました。なるほどと感心させられたお話であった。開放的なお寺に高揚する程、趣向が必要と課題提供されたように思っ

た。小沢昭一的節談説教では親鸞聖人四十五歳のとき弁円(べんねん)という修験道は聖人を暗殺しようとする害心を抱くが聖人の自然な装い振る舞う姿に接し

回心懺悔された。その後聖人に仕

ためには、仲間づくりが大切なことも学びました。

この私の思いを住職や総代に話したところ、賛同をいただいたので、今みんなで仏壮結成にむけての準備を進めています。「世のなか安穩なれ仏法ひろまれ」と、同朋社会の形成を願う仏壮にしたいと思っています。

えられたという節談は、まさにご本願であった。



お・知・ら・せ

二〇〇九年十月十日(土)

本山にて

仏教壮年会連盟結成大会
開催予定です!

●参加対象者は各教区評議員ほかです。

●詳細につきましては後日ご報告させていただきます。

編集後記

今回はじめて編集に関わらせていただきました。いろいろな意見の出る中、読んでもらえる紙面づくりを目指し、構成、見出し、文字数、大きさ、写真・イラストの配置など工夫を取り入れた紙面ができあがりました。

丑年がはじまり、早一ヶ月が過ぎましたが、時が「光陰矢の如し」といわれるように瞬く間に過ぎ去ります。一日一日を大切に過ごしたいものです。

まだまだお寺に足を運ぶ機会の少ない私ですが、様々な場面で活躍されている諸先輩を見習い生活に生かしていく所存です。編集にご協力いただいた皆様に感謝いたします。

合 掌
(福屋組 浄光寺 森脇悦朗)